



2023 学びの丘学園

第4号

8月30日発行

おかのうえのぼくら

文責:学びの丘学園コーディネーター 上野陽二

〔7月26日〕学びの丘学園小・小連携研修「自由ヶ丘地区の仕組みや取組を学ぶ会」開催

学びの丘学園は、宗像市の教育施策『小中一貫コミュニティ・スクール』の2年目の取組を進めています。

現在、その取組の1つ、ふるさと学習のカリキュラムづくりとして総合的な学習の時間の計画を進めているところです。

また、「地域を知らずしてカリキュラム作成はできないのでは」という考えから、自由ヶ丘地区コミュニティ運営協議会組織の各部代表(右記表)の方々と学校(教員)の交流会を開催することができました。

まず、コミセンの概略をプレゼンで知りその後各部の取組や活動について説明していただきました。「知らないことがたくさんありました・・・」「地域で活躍されている方を知ることができてよかった。」などの声が聞かれました。交流会が終わった後は、自由ヶ丘小学校・自由ヶ丘南小学校の教員が学年ごとに集まって、説明していただいた地域の方々と一緒に話している姿がたくさん見られました。地域の方々や教員の中からも「来年も交流会をやりましょう。」の音が聞かれました。これをきっかけに学校・家庭・地域が繋がって子どもたちの育成ができていければと思いました。

『自由ヶ丘地区の取組について』

【部会等紹介】

区長会	柴田 耕司 様	
安全環境部会	林田 正弘様	部会全体
	矢嶋 勝行様	遊歩道の会
	河野 健一様	遊歩道の会
青少年育成部会	永見 真二様	部会全体・まつり
	占部 光保様	なか森開放・プレイパーク
健康福祉部会	片平 圭一様	部会全体(福祉会以外)
	鈴木 章様	福祉会
広報委員部会	今津 理恵様	
事務局	牟田 貴美子様	ジェンダー平等推進会 自由ヶ丘太鼓会
子ども大人会議	羽矢 満里子様	



現在までの学校と地域との連携・協働活動

(●学校支援活動 ◆地域との連携活動)

- 家庭科(裁縫)・・・自小5年、南小5年
- なか森体験活動・・・自小1年
- 水泳の監視(自小、南小)・・・自由の森遊歩道を守る会
- 赤ペン先生・・・南小1年、2年
- 野菜づくり・・・自小2年、南小2年
- コミセン訪問・・・南小3年(ふるさと学習)
- ◆子どもおとな会議
- ◆寺子屋
- ◆わんぱく広場実行委員会(文化祭りの活動)
- ◆プレーパーク
- ◆防災センター体験活動(自小・南小児童希望者)

第2回「子どもおとな会議」



意見を出し合い項目ごとにまとめています



7月16日（日）第2回「子どもおとな会議」が開催されました。前回出された意見を、「大人の力をかりるもの」「一緒に考えてどうするかを決めるもの」「子どもでもできるもの」の3種類に分けて付箋に記入しました。その後、項目ごとに分類し、表題をつける作業をしました。子どもたちの柔軟な発想と大人のアドバイス等により、出された意見すべてがグループ分けされました。第3回は、グループ分けされたものを実行可能な順位付けを行い、具体的な計画へ進めていくこととなります。月1回2時間という会議ではありますが、着実に前進しています。何が決定され、実行できるのかわかりませんが、ふるさと自由ヶ丘を子ども目線を加えて盛り上げていこうとしています。

『わんぱく広場実行委員会開催』

今年も10月28日（土）に『自由ヶ丘文化祭り』が開催されます。その祭りに主体的に関わり、自由ヶ丘を盛り上げようという『わんぱく広場実行委員会』が7月22日（土）に開催されました。今年は、昨年の2倍を超える37名の児童・生徒が応募しました。応募者が多かった理由は、昨年体験した児童・生徒が「やって楽しかった。」という達成感・成就感が口コミで伝えられたからだと考えられます。

第1回は、午前中、実行委員全員が知り合うために、コミュニケーションづくり（アイスブレイク）を行いました。午後からは、昨年度の活動内容を聞き、そのうえで自分がやりたいものを全員が出しあい、出された意見を分類し下記【**口囲み**】の内容に決定しました。基本的には老若男女、誰もが楽しめるものという考えを大切にしています。

投てき、お菓子・おもちゃくじ、焼きそば
スーパーボールすくい

※9月3日（日）に具体的な活動計画について協議します。



本日の活動内容の説明を真剣に聞き入っている子どもたち



3つの活動内容を定めるための多数決を行う子どもたち

寺子屋合同開催



8月19日（土）『自由ヶ丘南小学校の寺子屋』と『自由ヶ丘地区コミュニティセンター（コミセン）の寺子屋』の交流会をコミセンで行いました。予測はしていましたが、校区の関係で南小の児童は参加者12名中1名でした。今後も両校の児童が交流できる方法はないか検討していきたいと思います。基本的には、寺子屋の実施されている会場の校区内の児童が校区内の会場に参加しています。

※家庭の都合で使い分けている児童4名、両方参加の児童1名もいます。